

写真はアオキの花のつぼみです。アオキの花は、庭木や公園の植え込みでよく見られる植物ですが、花そのものはあまり目立ちません。多くの人は、冬に赤く実った果実の姿はよく知っていても、花のつぼみや開花の様子を意識して見ることは少ないのではないのでしょうか。しかしよく観察すると、春を目前にして、枝先にはしっかりとした花芽がふくらみ、静かに開花の準備を進めています。

アオキはミズキ科アオキ属の常緑低木で、日本では本州から沖縄まで広く分布しています。厚く光沢のある葉を持ち、日陰にも強いため、庭木や公園の植栽としてよく利用されます。雌雄異株で、雄株と雌株が別々に存在し、春に小さな花を咲かせたあと、雌株には冬に赤い実が熟します。この実が長く枝に残るため、冬の景観を彩る植物としても知られています。

こうして見ると、アオキの花は確かに地味な存在です。しかしこの小さなつぼみの一つ一つが、やがて花を開き、受粉を経て、冬には鮮やかな赤い実へと変わっていきます。今はまだ控えめな姿ですが、その内側には季節をつなぐ大切な準備がしっかりと進んでいるのです。

